

# 令和3年度 公益財団法人ひばり事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

## 1 総括

- ① 公益財団法人として法令遵守の徹底と社会的使命の役割・責任を自覚し、公益・収益の事業バランスを保ち事業推進に取り組むとともに、高島市の施設を管理運営する指定管理者として施設の有効活用と利用者へのサービス向上に努めた。
- ② 新型コロナウイルス第5波で8月8日から滋賀県にまん延防止等重点措置が発令されると、高島市の要請により午後8時までの時短営業となった。更に8月26日には緊急事態宣言に移行され、8月28日から9月30日まで全施設の休業を余儀なくされた。
- ③ 年末からの稀に見る大雪で春休み近くまで屋外施設が利用出来なかった他、年明けから感染拡大した新型コロナウイルス第6波では、子どもの感染者数が増えるなか子どもを対象とした事業に影響が出た。
- ④ 経営面では度重なる新型コロナウイルスの感染拡大とお盆前後の長雨、冬期の大雪、燃料代の高騰もあり、一層の経費削減に取り組んだものの非常に厳しい経営を強いられた年度であった。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策に関しては、行政機関からの指導を基に徹底した対策を講じて各施設営業を行った。

### (1) 高島市今津総合運動公園

- ① 新型コロナウイルス第4波から6波による大会の中止や規模縮小、夏休みの団体合宿のキャンセル、お盆前後の天候不順、冬期の大雪等が重なり、前年度よりは回復したもののコロナ以前(令和元年度)と比較すると売上で7割、来園者数では6割に留まった。
- ② 9月に開催予定であった大型イベント「TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジ」は緊急事態宣言発令による休園要請により中止となった。
- ③ 大会やイベントが中止される中、近畿私学女子ソフトボール大会は開会式を簡素化するなど感染防止対策に配慮され2年ぶりに開催された。
- ④ 年末から降り続いた大雪で、スタジアムのフェンス等施設の一部が雪害の影響を受けた。
- ⑤ 高島市において、温水プールジャクジーの漏水修繕およびろ布の取り替え、遊具設備の経年劣化部分の修繕、スタジアム誘導灯の取り替えが行われた。

## (2) 家族旅行村ビラデスト今津

- ① 近隣府県に発令されたまん延防止等重点措置および緊急事態宣言の期間中は学生団体の宿泊利用が皆無となった。
- ② 7月9日より「今こそ滋賀を旅しよう！第4弾」が始まり一時宿泊客が増え賑わったものの、8月8日に滋賀県にまん延防止等重点措置が発令されたことにより、新規補助券の発行が中断となり、この追い風は長く続かなかった。
- ③ 8月10日頃から続いた長雨により、お盆の書き入れ時に施設利用のキャンセルが相次ぐとともに、8月29日から9月30日までは緊急事態宣言に伴う休業要請により売上は皆減した。
- ④ 密集を避けられるキャンプ場は毎週末多くのキャンパーで賑わったが、交流館は利用者が回復せず低調に終わった。

## (3) 体験交流センターゆめの

- ① 前年と同様に土日祝日は通常営業および平日は予約営業とし、感染防止対策を徹底して営業を行った。
- ② 滋賀県の「みんなでつくる滋賀県安心・安全店舗認証制度」に参加し、6月に承認店舗として公表された。
- ③ びわ湖高島観光協会が行っている「高島市観光アプリ」に情報を掲載した他、「しが旅第4弾」による「しが周遊クーポン」の使用可能施設として公表された。
- ④ 新型コロナウイルス第4波・5波、お盆前後の天候不順、緊急事態宣言による休業要請により、売上・来客数共に伸び悩んだ。
- ⑤ 10月からキャッシュレス決済(Pay Pay)を導入した。
- ⑥ 高島市において、館内照明のLED化と空調・換気扇の分解洗浄が行われた。

## 2 健康づくり・スポーツ振興事業(公益目的事業1)

- ① 本年度においても各スポーツ団体が示す「感染防止ガイドライン」を遵守しながら各種教室を開催した。また、温水プール利用者および自主事業の参加者には検温による健康管理の協力をお願いした。
- ② 新型コロナウイルスオミクロン株の感染が拡大した第6波では、以前のコロナ感染拡大時と比べて、スクール生の欠席や施設の利用控えが目立った。
- ③ 本年度においても、水泳競技大会等全国規模の大会出場権を獲得した。

## (1) スクール・教室開催事業

### スイミングスクール

- ① スイミングスクールでは密集を避けるため、準備体操を小グループで行うとともに、レッスン終了時間をずらすなどの取り組みを行った。
- ② 新型コロナウイルス第6波では学校の臨時休業によりスクール生の欠席が相次いだため、振り替え出席の期限を延長して対応した。
- ③ 本年度の学校水泳は今津東小学校、マキノ学区の3小学校およびマキノ中学校が当施設を利用しての実施となり、朽木東小学校には指導員を派遣した。
- ④ 国民体育大会のオープンウォータースイミング競技は新型コロナウイルスの影響により中止となったが、所属選手が滋賀県代表選手に選出された他、全国ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会では活躍した。
- ⑤ 無料体験教室を実施するにあたり、従来の新聞折り込みは行わずSNSで発信したが、多くの参加者を募ることができた。

コース	対象	実施回数	延べ参加人数
本科（幼児・ジュニア）	4歳～中学生	599回	9,601名
競泳	小中学生	259回	2,402名
トライアスロン	小学生	235回	1,085名
成人	18歳以上	220回	1,171名
プライベート	小学生以上	26回	26名
グループ		2回	4名
学校出張水泳教室	1小学校	3回	123名
学校水泳教室	小中学生	22回	1,056名

### テニススクール

- ① コロナ禍で新規受講生が増えない中、既存の生徒一人ひとりに向き合い、幼児から高齢者それぞれに沿った内容で教室を実施した。
- ② 選手コースの世代交代が進む中、「準選手コース」を設け、大会出場を目標に取り組む生徒の掘り起こしに尽力した。
- ③ 約1ヶ月に及ぶ施設の休業でしっかりした練習ができなかったが、受講生1名が関西地区大会に出場することができた。

コース	対象	実施回数	延べ参加人数
シニア	65歳以上	44回	88名

コース	対象	実施回数	延べ参加人数
平日初級	18歳以上	35回	70名
土曜日		128回	496名
ナイター			
キッズ	3歳～5歳	40回	80名
シヨート	6歳～8歳	45回	180名
ミディ	8歳～11歳	45回	675名
ジュニア	11歳～15歳	44回	215名
選手	10歳～18歳	165回	495名
準選手	10歳～15歳	170回	750名
グループ	全ての方	37回	164名

#### 艇庫・その他

- ① 琵琶湖で実施したカヌー教室は全11回の計画であったが、緊急事態宣言に伴う休業要請により8回の開催となり、その他の艇庫活動も1ヶ月前倒しで終了した。
- ② 市内小学3年生の総合学習「水に賢い子供を育てる年間活動型プログラム」では、前年コロナ禍で中止となり参加できなかった現4年生と合同で着衣泳を体験した。

事業名	対象	実施回数	参加人数
水に賢い子供を育てる年間型プログラム	市内小学生	1回	18名
カヌー教室	小学生	8回	23名

#### (2) 健康づくり教室

- ① 市介護予防普及啓発事業「元気づくりカレッジ」を受託し、1期15回実施したが、新型コロナウイルスの影響で参加者は低調であった。
- ② 高島公民館主催事業「あなたも走れるランニング教室」に講師を派遣し、5月～11月の7ヶ月間で10回実施した。
- ③ アクアビクス等好評を得ている教室は多くの参加者で賑わっていたが、年明け以降に感染拡大した第6波で参加者が大きく減少した。

事業名	対象	実施回数	参加人数
やさしいヨーガ	18歳以上	44回	298名
太極拳		3回	12名
トレーニング講習会		随時	44名

事業名	対象	実施回数	参加人数
水中歩行	18歳以上	36回	164名
アクアビクス		79回	1,077名
プールで元気運動		15回	108名
機能改善歩行教室		15回	44名
アクアエクササイズ		18回	175名
いきいきトレーニング倶楽部	60歳以上	24回	159名
ランニング教室（受託）	18歳以上	10回	100名
元気づくりカレッジ（受託）	65歳以上	15回	91名

### (3) 大会イベント等開催事業

- ① 高島市小体連主催水泳記録会がコロナ禍で開催されなかったことから、市教育委員会および市スポーツ協会の後援を受け、高島 B&G 海洋センターと共催して個別測定による水泳記録会を開催した。
- ② (一社)日本スイミングクラブ協会認定泳力資格級については、本年度は延べ143名が合格した。
- ③ グラウンドゴルフ月例会は年間11回を予定していたが、緊急事態宣言による休業等により7回の開催となり、このうち新たに企画した「チーム対抗戦」は参加者から好評を得られた。
- ④ ゲートボール大会においても、新型コロナウイルスの影響で規模縮小、参加チームの市内限定、開催日程の変更等を余儀なくされたが、感染防止対策を万全に行い3大会を開催することができた。

事業名	対象	実施回数	参加人数
泳力認定	25m泳げる方	8回	143名
水泳記録会	市内小学5～6年生	1回	37名
グラウンドゴルフ月例会	18歳以上	7大会	810名
ゲートボール大会		3大会	160名

## 3 ふるさと・自然体験交流事業(公益目的事業2)

### (1) 自然体験・観察事業

- ① 毎年恒例となっている「星空観察会」は新型コロナウイルスの影響により2回、「オオクワガ

夕を育てよう」は1回の開催となった。

- ② 体験型イベント「世界の昆虫展とカブトムシの里」は、施設を拡張してカブトムシの手掴み体験や希少な外国産カブトムシ等との写真撮影会を実施し、コロナ禍のなか多くの家族連れで賑わった。

事業名	対象	実施回数	参加人数
星空観察会	全ての方	2回	38名
オオクワガタを育てよう		1回	99名
世界の昆虫展とカブトムシの里		22回	1,688名

## (2) ふるさと体験等レクリエーション事業

- ① ビラデスト今津では「絶叫ブランコ」と「ウォーターバトル」のテレビ取材があり、6月に放映された。
- ② 森の交流館芝生広場に子供用の木製平均台を2台設置し宿泊者の要望に応えた。
- ③ 体験交流センターゆめのは、(公社)びわ湖高島観光協会が発行する「びわ湖高島周遊ガイドブック」に「そば打ち体験」の紹介記事を掲載していただいた他、インターネット予約(じゃらん・アクティビティジャパン)を活用した販売も行った。

事業名	対象	実施回数	参加人数
春山開き	全ての方	1回	13名
木工体験		随時	92名
はんごう炊爨		6回	234名
ウォーターバトル体験		6回	131名
絶叫ブランコ・絶景遊歩道		随時	13,804名
そば打ち体験		随時	709名

## 4 収益事業(施設利用者への利便提供事業)

### (1) 運動公園・ゆめの

- ① 「体験交流センターゆめのは」のイメージアップを図るため、レストランの名称を「レストランひだまり」から「ダイニングゆめのは」に改名した。
- ② テイクアウト弁当は、運動公園内で行われる大会等に参加される選手や関係者の間で好評頂いた。

- ③ お客様の要望に応じるため「ダイニングゆめの」の食事メニューに新たに2品を加えた。
- ④ 売店販売においては、地域特産品を中心としたお土産や地元産野菜等を販売した。

## (2) 家族旅行村ビラデスト今津

- ① 「レストハウス赤坂平・バーベキューの館」ではまん延防止等重点措置の発令期間中、酒類の提供禁止措置により売上が減少した。
- ② コロナ禍でもニーズが高まるキャンプ需要に応えるため、レンタル用品や薪等の品揃えを増やした。
- ③ コロナ禍において、家族単位で食事が楽しめるコテージの「鍋プラン」が好評だった。
- ④ 滋賀県の観光施設等魅力向上・感染防止支援事業補助金を活用して、シャワーハウス等の環境整備を行った。

## (3) 箱館そば鳴野

- ① 年末からの大雪で客足が鈍ったものの、90日間の営業を通しては前期以上の売上と利益を計上することが出来た。
- ② 前年度に引き続き、自宅で「箱館そば」を楽しんでもらえるよう宅配サービスを行った。